

第 60 回日本母性衛生学会総会・学術集会

テーマ 多職種で支える母性の確立と母と子の絆

大会長 関 博之

(埼玉医科大学総合医療センター/総合周産期母子医療センターセンター長・教授)

開催年月日 令和元年 10 月 11 日

会 場 ヒルトン東京ベイ

参加人数：1,811 名

※学術集会は、当初令和元年 10 月 11 日、12 日の 2 日間開催としていたが、台風 19 号の発生により、10 月 12 日を中止し Web 学術集会を開催した。

Web 学術集会：令和 2 年 1 月 23 日～3 月 31 日まで

Web 学術集会演題表示アクセス数：7,855 回



第 60 回学術集会を振り返って

第 60 回日本母性衛生学会学術集会長 関 博之

はじめに

第 60 回学術集会は、台風 19 号の影響で初日のみの開催となり、残念ながら 2 日目は中止となりました。特に 2 日目のプログラムに関与されていた学会参加者の皆様には多大なご迷惑をお掛けしたことを心よりお詫び申し上げます。近年我が国では集中豪雨、台風、猛暑などの異常気象をはじめ、地震、火山の噴火等の災害が頻発し、改めて災害の多い国であると認識せざるを得ない状況となってきました。熊本地震においては、周産期医療の災害対策に周産期リエゾンの重要性が改めて認識され、本学術集会でも 2 日目のシンポジウムに「周産期医療における災害対策（周産期リエゾン）」を企画しました。周産期医療における災害対策は喫緊の課題であることが認識される昨今、今回の台風 19 号は学術集会開催においても災害対策の重要性を我々に認識させるものとなりました。さらに、現在がコロナウイルスの問題で、世界中で学



会等の多くのイベントが中止となっております。これも広義には災害と考えられます。第 60 回学術集会を振り返るにあたり、最後に学術集会開催に対する災害対策に関して私見を述べたいと思います。

1. 学術集会を企画するにあたり

第 60 回日本母性衛生学会のテーマは『多職種で支える母性の確立と母と子の絆』とさせていただきます。母性の確立には女性の幼少期における親の愛情をはじめとした良好な環境が必要なことがわかってきています。

不幸にして、良好な環境で幼少期を過ごせなかった女性の中には自分が母となった時に母性の確立がうまく行かず、我が子との良好な関係が築けない女性があります。その結果、我が子の養育に悩み、そのストレスが我が子に向かえば虐待、ネグレクトに、またうつ状態に陥ると自殺になってゆくと考えられています。最近、妊産褥婦の死亡原因



の第 1 位が自殺であることが明らかとなりました。また、テレビや新聞での児童虐待の悲しい報道が明らかに増えています。このような母性の確立の危機は少子化問題以上に重要な社会問題と考えられます。本学会は、多職種の会員から構成されているため母性の確立をサポートするために最も適した団体であり、併せて母子保健の向上を設立の目標としたことを鑑み、第 60 回の記念すべき学術集会のテーマは、母性の確立を key word にしようと考えました。

『多職種で支える母性の確立と母と子の絆』というテーマは若干長めで、スムーズに頭の中に入らないのではという危惧を持ちましたので、参加者の方々にこのテーマをスムーズにイメージしていただけるよう、このテーマをモチーフとした絵を画家の代島千鶴さんに描いていただき、その絵を学会のポスターに使うことにしました。参加者の方々に私の意図がうまく伝わったことを願っています。

2. 新しい試み

今回、日本母性衛生学会学術集会は第 60 回を迎えました。人間でいえば還暦に当たります。その上、2019 年は令和という新しい御代になりました。先人が築いた伝統を継続してゆくことは重要な我々の責務ですが、学会は常に進化してゆくべきものと考え、新しい時代に相応しい試みも企画しました。

第 1 に、モバイルアンサーとツイートフィルタリングシステムの導入です。これまでの学術集会で、助産師さんが医師への質問をためらう場面を何度か目にしました。学術集会では

質疑応答は極めて重要で、躊躇することなく質問ができる環境を整えることは学術集会を開催する上で非常に重要です。モバイルアンサーとツイートフィルタリングシステムの導入はこの問題の解決策になり得ると考えました。これをうまく利用すると座長や発表者と聴衆が相互に情報交換ができること、躊躇なく質問できることなど、これまで以上にディスカッションや情報交換の質が向上することが期待されます。今回は2日目が中止となったため、この試みの効果を十分に評価することはできませんでしたが、第61回以降の学術集会でも是非試みていただくとよいと考えています。



第2に、デジタルポスターの導入です。ポスター展示は場所を取る欠点がある一方で、長時間掲示できる利点があります。近年、学術集会開催のための寄付を頂戴することが困難になりつつあり、学術集会開催に関わる経費の効率化は喫緊の課題です。経済的な視点からは、広いスペースを必要とするこれまでのポスターセッションのあり方は再検討の余地があります。デジタルポスターはスペースの縮小化が可能で、特にホテルでの学会開催においては経費の節減に有用な方法です。欠点はポスターを掲示しておくことができないことです。この対策として、会場の一角にP.C.を置き、随時自由にポスターの閲覧ができるようにしました。また、電子媒体で発表内容を送っていただくことになるので、今回の

ような災害で学会の開催ができない場合でも、容易にWeb開催ができる利点もあります。今後、多くの学術集会はデジタルポスターに移行してゆくのではないかと私は予想しています。



3. 60周年記念式典

第60回の本学術集会会長を拝命した時、本学会も還暦を迎えたとの思いがあり、これまでの先人の業績に敬意を表すると共に、我々会員一同が想いを新たに母子保健の向上に寄与してゆくためのエポックメイキングをしたいと考えました。秋篠宮皇嗣妃殿下は、母子保健に強い関心をお持ちであることを以前より存じ上げておりましたので、秋篠宮皇嗣妃殿下のご臨席を仰ぎ、60周年記念式典を開催できれば、会長としてはこの上ない名誉なことであり、本学会にとっても会員にとってもこの上ないエポックメイキングになるのではないかと考えました。秋篠宮皇嗣妃殿下が総裁をされている母子愛育会の理事で母教室の先輩である中林正雄先生のサポートをいただき、宮内庁にお願いし、秋篠宮皇嗣妃殿下のご臨席を賜ることができました。



60周年記念式典は、秋篠宮皇嗣妃殿下のお言葉、正岡理事長の式辞、丸木埼玉医科大学理事長の祝辞を賜った後、日本産婦人科医会会長木下勝之先生の記念講演「乳幼児の脳科学に基づく母の育児の重要性」を秋篠宮皇嗣妃殿下と一緒に会員一同拝聴しました。木下先生のご講演は、我々の日常生活に深く関わっているスマホをはじめとするITが幼少期の親子関係の確立における障害となっている可能性、その悪影響が次世代の母性の確立にさらに悪影響をあたえていることを脳科学の視点で解説されました。本学術集会のテーマに沿った内容であるばかりでなく、まさに現代社会が抱えているITの問題点を鋭く解説をした素晴らしい内容でした。終了後、多くの会員の方から賞賛の声を耳に致しました。大変充実した60周年記念式典になったこと、会長として大変ありがたく思うと共に、また満足しております。秋篠宮皇嗣妃殿下、ご講演賜った木下先生、ご参加頂いた来賓各位、会員はじめ多くの方々に心より御礼申し上げます。

4. プログラムの企画

(1) シンポジウムの企画

シンポジウムや教育講演は学術集会の最も重要な部分ですので、学術集会のテーマに沿ったもの、会員の興味のあるもの、研修キャリアに資するもの、など多角的な視点から参加者に満足していただけるよう企画しました。

本学術集会のテーマは、『多職種で支える母性の確立と母と子の絆』であり、このテーマに沿ったシンポジウムがシンポジウム2「妊産婦のメンタルヘルスケア 自殺対策～多職種の連携の充実～」とシンポジウム4「多機関・多職種による切れ目のない母児支援」です。産後うつをはじめとする精神疾患を有する妊産褥婦、あるいは精神不安を有する妊産褥婦のサポートやケアがうまく行かないと、その矛先が自分に向かえば自殺、子どもに向かえば、虐待やネグレクトになります。自殺は妊産褥婦の死亡原因の首位であり、悲惨な虐待やネグレクトに関するニュースも多数報道されており、まさにこの問題は周産期領域の重要かつ早急に対応しなければならない課題と考え、この2つのシンポジウムを企画しました。シンポジウム2の座長をお願いした竹田先生は妊産褥婦の自殺の重要性を最初に指摘し、問題を提起された方ですし、シンポジウム4の座長をお願いした光田先生は母児支援のシステムを確立された先生で、それぞれその分野の第一人者の先生に座長をお願いした本学術集会の中心的なシンポジウムです。

産科混合病棟の問題は、第59回の本学術集会でも取り上げられ、医療施設における永遠のテーマと言える課題であるため、昨年も座長をお勤めいただいた斎藤いずみ先生に座長のみならず企画もお願いしました。

それがシンポジウム1「『産科混合病棟』という存在 産婦人科医師および病院のトップ管理職の地位にある人と共に考える」です。子宮内胎児発育遅延（FGR）も大変重要な課題と常々考えておりましたのでシンポジウムに取り上げました。第59回本学術集会会長の高桑好一先生にシンポジウム3「子宮内胎児発育不全（FGR）の管理を考える」の企画をお願いしました。



また、会員の方々にどのようなテーマがシンポジウムに取り上げて欲しいか尋ねたところ糖尿病に関するテーマがよいとのご要望がありましたので、福井トシ子先生にシンポジウム5「糖尿病妊婦のケア」を企画していただきました。

近年、我が国では異常気象による災害が明らかに増えております。また、地震や火山の噴火などいつ起こるか、正確に予知することはまだまだ難しい状況です。熊本地震では周産期リエゾンの重要性が改めて認識されたことも記憶に新しいところです。このため、鈴木先生に依頼し、シンポジウム6「周産期医療における災害対策（周産期リエゾン）」を企画しま

した。本学術集会の『目玉』の1つと考えておりました。シンポジウム1は11日に行えましたが、残念ながら他のシンポジウムは12日予定のため中止となりました。

(2) パネルディスカッションの企画

ダイヤモンド☆ユカイ氏は埼玉県のコウノトリ大使で、自ら男性不妊であった経験や想いを著書にし、学会の講演等でもその経験を述べられ、男性不妊に関して患者の立場からその啓蒙に努力しておられます。ダイヤモンド☆ユカイ氏をパネラーとして招聘し、参加者の皆様と男性不妊に関することおよび男性不妊患者の心理を共有し、明日からの診療に役立てていただけるよう企画しました。



(3) 教育講演の企画

教育講演は、参加者の皆様が関心を持っていただけるテーマであると共に、「医療安全」、「感染」など専門医の更新に特に必要な領域の話題、クリニカルラダーの申請、更新の対象となるものを企画しました。「医療安全」講習の対象は竹田先生による教育講演4「母体死亡の原因疾患と対策」、「感染」講習の対象は山田先生による教育講演2「母子感染～最近の話題と対策」、クリニカルラダーの対象は大野先生による教育講演5「子癇、妊産婦脳卒中の治療戦略」を企画しました。また、近年話題となっている教育講演1「出生前診断から見た生命倫理」を福島先生に、助産師さんも行うようになりつつある超音波検査に関して、馬場先生に教育講演3「できる助産師の超音波検査」を企画していただきました。今後妊婦管理に必須となる家庭血圧に関して、目時先生に教育講演6「妊婦管理における家庭血圧測定の重要性」をお願いしました。教育講演1、2、3は11日に行えましたが、残念ながら教育講演4、5、6は12日予定のため中止となりました。

(4) 一般演題・デジタルポスター

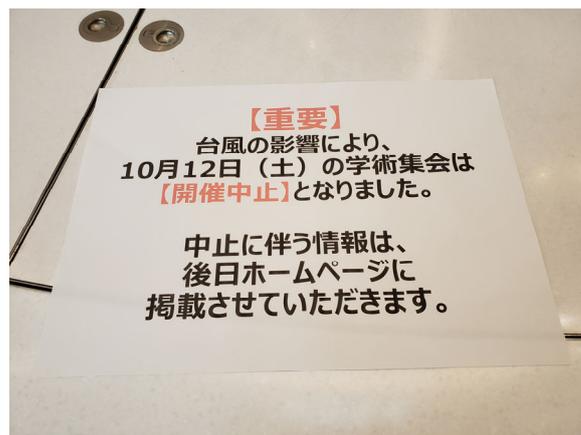
一般演題は約460題応募いただきました。デジタルポスターを採用した理由は、今回の学会がホテルでの開催となり、通常のポスターセッションでは広い会場が必要となり、費用が高騰化することになります。なんとかコンパクトな会場でポスターセッションを円滑に行いたいとの理由から採用致しました。ホテル側をお願いしていた情報送信システムの一部がホテル側の



不適切な対応で一部正常に作動せず、一部の発表者にご迷惑をお掛けする結果となりました。お詫び申し上げます。この点は、事後のホテルとの反省会の場で本学会の IT 部門を担当した企業の方にも加わっていただき、問題点と改善策についてディスカッションさせていただきました。将来、デジタルポスターを採用する学術集会は増えるものと予想され、今回の反省会が将来の学術集会において役立つものと考えております。

5. 中止となったセッションの対応策

12 日の中止を決定した時点で最初に脳裏に浮かんだのは、クロップミップの対象になっている教育講演 5「子癇、妊産婦脳卒中の治療戦略」が中止になり、受講できなくなってしまうということでした。助産師さんにとって、クロップミップの受講は学術集会に参加される重要な目的の 1 つです。このため、なんとかクロップミップの受講ができないかということで、Web 上での受講を考えました。そのため、日本看護協会会長の福井



トシ子先生に相談し、協力をお願いしたところ、ご賛同いただいたばかりでなく、福井先生のご担当予定のシンポジウム 5（12 日開催予定）「妊娠糖尿病妊婦のケア」を自らクロップミップ用の講演に直していただきました。そのおかげで、教育講演 5（講演者の大野先生のご協力をいただきました）とシンポジウム 5 が Web 上のクロップミップの教材となりました。（受講者は 109 名：修了者 94 名）Web 上でクロップミップをやるのであれば、併せて 12 日予定の教育講演、シンポジウム、一般講演、さらにランチョンセミナーも Web 上でやろうと考え、ご賛同いただいたシンポジストや演者の方に発表していただくことと致しました。シンポジウムの 23 演題中 12 演題、教育講演 3 演題中 2 演題、ランチョン 5 演題中 2 演題の発表をいただきました。また、12 日発表予定の一般口演とデジタルポスターで 11 日から参加され、11 日に発表を希望された演者の方およそ 100 題は 11 日に発表していただき、残った一般口演 141 題中 60 演題、デジタルポスター 118 演題中 117 演題を発表していただきました。Web 学会へのアクセス数は 3 月 9 日の時点で 2,634 です。ご参加ありがとうございます。

6. 災害対策

本学会とほぼ同時期に関東地方で開催され、台風 19 号の影響で学術集会開催の中止（延期）または一部中止となったのは少なくとも 8 学会あります。災害により学術集会が中止、あるいは延期になることは決して稀なことではありません。今回のコロナウイルスの影響は台風 19 号よりはるかに大きいと思います。

今回、会長として2日目を中止すると決定することは非常に困難を伴ない、まさに苦渋の決断でした。本学術集会は約2年かけて準備してまいりましたので、当然のことですが本音は予定通り最後まで開催したかったという気持ちです。しかし、同時に参加された方々の安全、無事にお帰りいただくことも極めて重要な学会長の責務です。今は淡々と文字にしておりますが、当時の心境は、まさに苦渋の決断を強いられたという想いです。

今回の苦渋の決断をした経験から、災害による学術集会開催の是非を決定する条件をあらかじめ学会として策定しておけば、今後私のような経験をしないで済むのではないかと思います。併せて、学術集会の中止あるいは一部中止は、大きな経済的損失を伴う可能性があります。経済損失が生じた場合の対応策も併せて策定しておく必要があると考えております。

(1)学術集会開催の災害保険が必要であること

学術集会開催に対する災害保険はまだまだ一般的なものではなく、賭け金が高いことが予想されます。しかし、今後災害による影響を受ける学術集会は決して少なくないと思います。団体加入は保険掛け金の低減が期待できるので、学会が団体で加入できる災害保険の作成が必要と考えます。団体加入が可能な災害保険の作成を保険業界に働きかけることは喫緊の課題と考えます。

(2)災害等で学術集会開催を中止とする条件の設定

学術集会長は時間をかけて準備してきた学術集会を行いたいという強い希望を持っており、また中止することは経済的な損失を生じる可能性もあり、中止という判断を下しにくい思考状態にあります。このため、中止の条件を学会として策定しておくことが必要と考えます。具体的な学術集会の中止陽光の策定を、是非学会にお願いいたします。

(3)今回行った事後処理

12日に予定されたシンポジウム、教育講演、一般演題は可能な限り（発表者の許可が得られなかったものを除き）Webで学会を開催するという形で発表させていただきました。その理由は、時間をかけて準備した内容を可能な限り無駄にしたくないこと、発表ができなかった方に可能な限り発表の機会を用意したかったためです。今回の経験により実感したことは、災害等で学術集会が中止になった際の対応は、あらかじめ決めておき事前に発表者の承諾をいただしておくことの必要性です。今回、多くの方はWeb開催に賛同してくださいましたが、賛同できないとお考えで協力いただけなかった方、論文化するためデータの開示を控えたいとおっしゃった方もいらっしゃいました。事後承諾ではなく事前の了解が必要と考えております。

終わりに

今回、災害による学術集会の一部中止という経験をしました。昨今の異常気象、コロナウイルスのパンデミックを考えると、今後再び同様の事態に遭遇する可能性は決して低くはありません。今回の経験をもとに、具体的な災害対策を構築しておく必要があると実感しました。

